

B-brain

リッチコンテンツ時代の
ビジネスモデルを追究する

[ブロードバンド・ブレイン]

JULY 2002
NO.0005

7

Contents

InterviewP.110

40Gbpsで企業間を相互接続
ブロードバンド流通網の整備図る

B-styleP.114

【Jストリーム】

ストリーミング市場の拡大期捉え
代理店主体の営業攻勢で勝負かける

シリーズ

ブロードバンド時代のISP法人戦略...P.118

【NEC : BIGLOBE】

“オールNEC”で臨む商品開発
顧客ニーズにASP+SIで応える

Broadband

Market eyeP.120

高コスト構造のコンテンツ配信
料金値下げの切り札“CDN”の価値

Technical elementP.126

携帯電話でブロードバンド配信
モバイルCDNの実現可能性を探る

ColumnP.130

通信業界に広がる新規事業領域
プラットフォームビジネスの価値を問う

News flashP.132

COVER
ブロードバンド・エクステンジ
代表取締役社長

大山 茂氏

Photo : Minoru Mitsui

B - b r a i n

Interview

B-style

Broadband
Market eye

Technical element

Column

News flash

Jストリーム

ストリーミング市場の拡大期捉え 代理店主体の営業攻勢で勝負かける

1997年5月に設立されたストリーミング技術開発ベンチャーのJストリームは現在、歌手のコンサートや企業の株主総会まで幅広い用途にわたってストリーミング配信のアウトソーシングサービスを手がけている。同社は近い将来、ブロードバンド市場がある一定規模に達したタイミングで、Webサイトの多くがストリーミングをベースとしたサービスに切り替わっていくと予測。急激なマーケットの伸びに対応するため、販売代理店網の整備に力を注いでいる。

Company Profile
 代表取締役社長：白石清
 本社：〒107-0052
 東京都港区赤坂6丁目3番18号
 赤坂パークプラザ
 資本金：11億9195万6625円(2001年9月21日現在)
 社員数：67名(2002年4月末現在)
 事業内容：ストリーム専用チャンネルの貸し出しサービス、ストリーミングデータのホスティングサービス、ダウンロードファイルのホスティングサービス、ストリーミングメディアファイルへのエンコーディングサービス、上記に関するコンサルティングサービス
 URL：http://www.stream.co.jp/

総務省の発表によれば、4月末現在における日本のFTTHやADSL、CATVインターネット等のブロードバンドインターネット接続サービス利用者数は、約426万人を数える。ラストワンマイルの広帯域化が進んだことで、インターネット上では300kbpsや1Mbpsクラスのストリーミングサービスを提供するWebサイトが急増。動画像を専門に取り扱う“インターネット放送局”も登場し、企業のWeb活用も動画像をベースとしたものにシフトしてきている。

そうした市場環境の変化の中で、ストリーミング配信のためのソリューションビジネスで業績を伸ばしてきた企業がある。1997年5月に設立されたJストリームである。2000年度約8億円だった売上高は、2001年度に約14億円へと倍増し、約1億5000万円の当期純損失も4000万円の当期純利益へと転じた。堅実な設備投資とブロードバンド市場にマッチした商品開発で躍進を遂げた勝ち組のインターネットベンチャーである。

“撮る”と“流す”をサポート

Jストリームは、映像や音声などのブロードバンドコンテンツをインターネットで配信したいと考える個人や法人に対して、



Jストリーム代表取締役社長の白石清氏

ストリーミングをベースとしたインターネット放送のシステムやネットワークインフラを提供している。いわば、インターネット放送事業者の黒子である。サービスの中身は、エンターテインメントから企業のIRまで幅広い。過去には、松任谷由美のコンサートや東京モーターショーの記者会見、ソニーの決算説明会や本田技研工業の商品発表会などの中継を手がけた実績を持つ。

具体的な業務は、インターネット放送に最適なコンテンツ制作、およびストリーミング配信を可能とするネットワークの開発・運用となっており、通信と放送の両分野をカバーしているのが特徴だ。具体的には、コンテンツ面ではストリーミング配信に適した画質、色数、フレーム数などの画質調整やエンコーディングなど、ネットワ

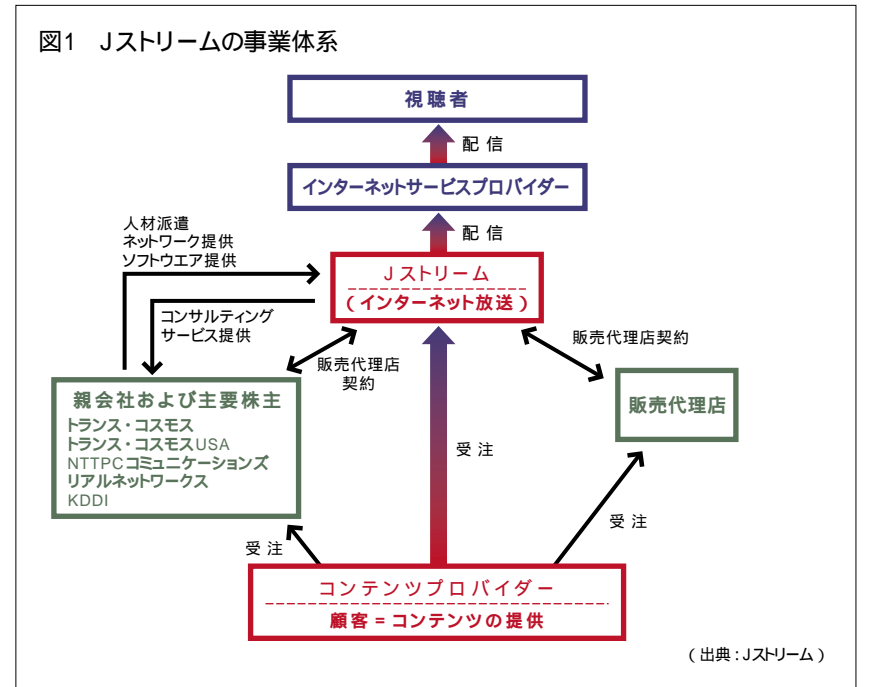
ーク面では最大で同時に5万人以上へ配信可能な百数十台の専用中継サーバーや広域負荷分散のためのシステム提供などである。

代表取締役社長の白石清氏は、「ストリーミングビジネスは“撮る”と“流す”を融合できて初めて成り立つ。この両方の技術をサポートしたことが、顧客企業から信頼を勝ち得ることができた最大の要因」と話す。白石氏は、以前に勤務していたリクルート時代には、FAXの同報配信サービスの通信ネットワーク構築を手がけたこともある技術畑の出身。通信系OSの開発経験もある。最先端のネットワーク技術をサービスに落とし込むその知識は、ストリーミングが一般に認知されていなかった98年当時から、顧客企業のニーズを汲み取りその要求に応じていくビジネスの勘所として働いてきたようだ。

アカマイと協力し海外配信も

Jストリームの強みは、その配信能力にある。通信事業者やISPが付加サービスとしてストリーミングサービスを手がけると異なり、同社はコンテンツホルダーとアクセスライン事業者の間に位置し、数多くのアクセスライン事業者を対等な足回りとして揃える。

ライブ/オンデマンド配信用サーバーが設置されているネットワークとしては、Jストリームに出資するNTTコミュニケーションズ、KDDIに加え、ISPのニフティ(@nifty)、NEC(BIGLOBE)、KDDI(DION)、日本テレコム(ODN)など、そしてADSLネットワークでは東京めたりっく通信、CATVネットワークではアットホームジャパン(@NetHome)などがある。また、iDCのアバヴネットジャパンや、CDN事業者のヒットポップス網内にも設



置されている。

海外市場へのネットワーク展開も進めてきている。2002年4月25日には、CDN事業者のアカマイ・テクノロジー・ジャパンとサービスの販売協力で合意。これを受けて、Jストリームのコンテンツホルダーが海外市場へ情報発信したい場合には、顧客がアカマイ・テクノロジー・ジャパンのストリーミングサービス「FreeFlow sm Streaming」をJストリームのサービスの一部として利用できるよう検討を開始した。

アカマイ・テクノロジー・ジャパンが持つ海外ネットワークの魅力は、同社の合弁パートナーである米アカマイ・テクノロジーのネットワークにある。米アカマイ・テクノロジーは、世界66カ国の1000ネットワーク上に1万3500台以上のサーバーを設置し、世界規模での配信を可能とする。

ストリーミングサービスを提供している点で、Jストリームとアカマイ・テクノロジー・ジャパンは競合関係ともいえる。しかし、実際には相互補完の関係にあると

ストリーミング
 インターネットを通じて配信される音声や映像を、ユーザが受け取りながらリアルタイムで再生する技術。ファイルサイズが大きいデータもダウンロードと同時に再生できるため、ユーザは映画のような大容量コンテンツもダウンロード時間を気にせず楽しむことができる。また、ストリーミングで配信するコンテンツのデータがユーザのハードディスク上には残らないため、不正コピーによる著作権侵害の心配もない。ストリーミングを見るためのソフトには、代表的なものでリアルネットワーク社のRealPlayer、マイクロソフト社のWindowsMediaPlayer、アップル社のQuickTimeがある

アカマイ・テクノロジー・ジャパン
 代表取締役社長：内藤眞
 本社：〒103-0015
 東京都中央区日本橋箱崎町36-2
 リバーサイド読売9階
 資本金：4億5000万円(2001年4月3日現在)
 事業内容：Webコンテンツの配信およびトラフィック管理サービス、ストリーミングメディアの配信およびトラフィック管理サービス、インターネットアプリケーションの配信およびトラフィック管理サービス、上記サービス導入に関連するコンサルティングサービス
 URL：http://japan.akamai.com/